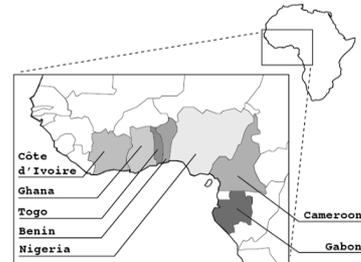


2011年10月9日
愛知県立大学サテライトキャンパス

Toward "studies on African childhood"
アフリカ子ども学を語る会
開催の趣旨

亀井伸孝
愛知県立大学

Fieldwork: 1996-2011



きっかけとなった拙著

『森の小さなハンター』たち:
狩猟採集民の子どもの民族誌』

- ▶ 亀井伸孝
- ▶ 2010年
- ▶ 京都大学学術出版会

- ▶ カメルーンの森で暮らす狩猟採集民の子どものたちの日常生活、生業活動、遊び、学校教育などを描いた民族誌



2010年、公開書評会

- ▶ アフリカ日本協議会公開インタビュー
- ▶ 「『森の小さなハンター』たち』を手がかりに「アフリカ子ども学」を考える: 亀井伸孝さんに子どもたちと過ごす中で感じたこと、考えたことを聞く」
- ▶ 2010年9月9日
- ▶ 東京都渋谷区、環境パートナーシップオフィスEPO会議室
- ▶ 文化人類学、教育開発、NGO、ジャーナリズム、心理学、出版社...

特集号「アフリカ子ども学の試み」

- ▶ アフリカ日本協議会機関誌
- ▶ 『アフリカ NOW』90号
- ▶ 特集「アフリカ子ども学の試み」
- ▶ 2011年1月31日発行

- ▶ 亀井の書評会の報告のほか、山田、トコ他による寄稿



マニフェスト: 「アフリカ子ども学」の構想

- ▶ 「事件性の高い不幸な問題だけをつづりあわせるのではなく、まず、「アフリカに多くの、実に多くの子どもたちが暮らしている」という事実から出発するのはどうか」
- ▶ 「先進諸国との落差で理解するのではなく、アフリカの子どもたちをじかに理解しようとする試みがあってもよいのではないか」
- ▶ 「それは、アフリカの子どもたちに暮らしぶりを教えてもらいながら、よりよい理解と支援を考えていこうとする、アフリカ研究・実践の大きな柱のひとつであるに違いないと確信している」(亀井, 2011)

アフリカの子どもから何を学ぶか

- ▶ 1) 人類進化へのアプローチ(生態人類学、心理学)
- ▶ 2) 人間の文化の多様性と学習、成長(文化人類学、民俗学)
- ▶ 3) アフリカ理解と開発: 教育・保健を中心に(国際開発研究、アフリカ地域研究)
- ▶ 重要なのは、「子どもたちを主役と位置づけた研究が必要であること」

アフリカを見つめる新興国



みじめなアフリカ? →新興市場アフリカ!

- ▶ 「新たな黄金郷(エルドラド)」(*Géopolitique*, Lacoste, 2009=2011)
- ▶ 「資本主義最後のフロンティア」(新潮新書『アフリカ』「NHKスペシャル」取材班, 2011)
- ▶ 資源価格の高騰という要因もさることながら、「若年人口急増の大陸=巨大マーケットの出現」という予感
- ▶ アフリカの子どもたちは、世界経済の行く末を左右するキャスティング・ボートなのかも?
- ▶ アフリカ=「楽しみな大陸」

ささやかな提案

- ▶ アフリカ子ども学研究会: 発信を続けましょう
- ▶ 文献収集: できれば子どもたち自身のまなざしや語りの数かずを集めたい
- ▶ 翻訳・紹介: *Afrique: le droit à l'enfance* (井上保子訳『アフリカ: 子どもの権利』)を励みとして
- ▶ 映像収集: 「映画で学ぶアフリカ子ども学」(近日発足予定?)

アフリカ=子どもたちの大陸



謝辞

- ▶ 私にアフリカの魅力を教えてくれた、アフリカ各地の子どもたち
- ▶ アフリカ日本協議会(AJF)、愛知県立大学多文化共生研究所、名古屋大学大学院国際開発研究科
- ▶ パネリスト、コメンテータのみなさま
- ▶ ボランティア・スタッフの学生のみなさま
- ▶ ご来場くださいましたみなさま

